

4 活力ある県土の基盤づくり

① 交流基盤の強化

目標

県民のくらしや物流を支える鉄道網、道路網、港湾を整備し、利便性の向上を図り、交流を活発にします。

現状と課題

鉄道やバスなどの公共交通網は、地域の通勤・通学の足のみでなく、まちづくりや産業・観光を支える重要な交流基盤であり、県内外からより一層の活力を取り込むためには、成田国際空港(以下「成田空港」という。)への更なる交通アクセスの改善や、首都圏中央連絡自動車道(以下「圏央道」という。)の整備に伴い増加が見込まれる高速バスの効果的な活用が課題となっています。また、昨今の社会経済情勢の変化を受け、公共交通を取り巻く事業環境は厳しさを増しており、地域にとって必要な鉄道・バスの維持・確保とともに、県民ニーズに合った効率的で利便性・安全性の高い公共交通網の整備が求められています。

道路網については、本県の課題である半島性の解消などのためにも、更なる広域的な幹線道路の整備・促進が必要です。全国や県内各地との交流や連携、さらには、県内外と成田とのスムーズな人・物の流れを強化する広域的な幹線道路ネットワークの整備が喫緊の課題となっています。また、人口が集中する県北西部においては、社会経済活動の支障となっている交通渋滞の改善が、観光地を有する南部・東部においては、アクセス性の向上や観光シーズンの渋滞緩和が求められています。

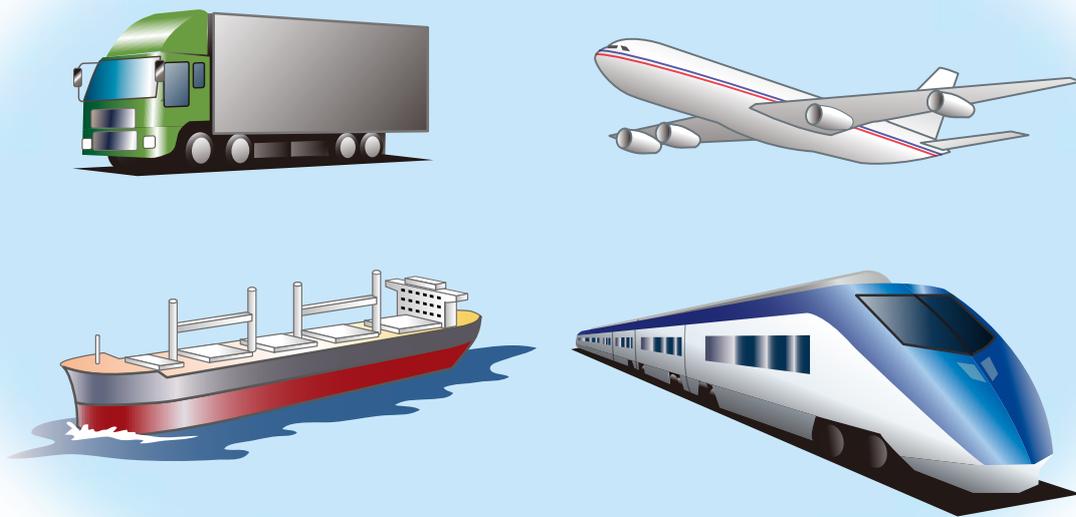
港湾については、国際物流における大量輸送のニーズへの対応や戦略的な港湾利用の促進を行うとともに、にぎわいある親水空間の創出が求められています。

取組の基本方向

鉄道については、成田空港と都心・東京国際空港(羽田空港)間の鉄道アクセスの更なる改善等、鉄道網の充実・強化に向けた検討を進めるとともに、通勤・通学時の混雑緩和や、駅のバリアフリー化の推進など、利便性・安全性の向上等に取り組みます。バスについては、圏央道の整備を踏まえた高速バスの活用や、生活交通バス路線の維持・確保に取り組みます。

道路については、県内外の交流強化に向けて、東京湾アクアライン(以下「アクアライン」という。)と一体となって、東西日本とつながる首都圏の広域ネットワークを形成する圏央道や東京外かく環状道路(以下「外環道」という。)・北千葉道路などの広域的な幹線道路ネットワークの整備を促進します。また、県内の更に多くの地域からおおむね1時間で県都千葉市に到着できる地域を拡大し、これら幹線道路の整備効果を県内各地へ波及させるため、地域高規格道路や地域間の交流を支える国道や県道の整備を進めます。

港湾については、大型船舶に対応した岸壁の整備やコンテナを扱う業種にターゲットを絞ったポートセールス*を行うとともに、魅力ある海辺空間の整備を進めます。



主な取組

1 公共交通網の充実・確保

成田スカイアクセス等を活用した「都心—空港・郊外直結鉄道」について、国の検討に協力します。将来的には、成田・羽田両空港間において同一空港並みの利便性を実現させるため、リニアモーターカー構想を国策として検討するよう国に働きかけます。

また、沿線住民をはじめとする鉄道利用者にとって使いやすいものとなるよう、市町村等の関係機関と連携し、鉄道事業者に対して、経営の安定化や安全性向上等を図るための支援を行うとともに、運行ダイヤの改善など利便性の向上や安全対策の徹底について働きかけるなど、鉄道網のより一層の充実・強化を図ります。

さらに、圏央道の整備を踏まえ、関係機関と連携し、アクアラインなど既存の広域的な道路ネットワークを活用した高速バスネットワークの形成を進めます。また、地域の関係者と共に、生活交通に必要なバス路線の維持・確保に取り組みます。

- 東葉高速鉄道株式会社に対する支援
- 北総鉄道株式会社に対する支援
- いすみ鉄道の基盤維持に対する支援
- 中小鉄道の安全性向上に対する支援
- 東京8・11号線の整備促進の調整
- つくばエクスプレスの利便性向上に向けた検討
- 鉄道駅バリアフリー設備の整備支援(再掲)
- ノンステップバス^{*}の整備支援(再掲)
- 地方バス路線の維持・確保に対する支援



いすみ鉄道



成田スカイアクセス線

県内鉄道路線図



2 交流を支える道路の整備

全国や県内各地との交流や連携、さらには県内外と成田のスムーズな人・物の流れの強化を目指し、圏央道、外環道、東関東自動車道館山線・国道127号富津館山道路の4車線化、北千葉道路など高規格幹線道路等の整備を促進します。

また、高規格幹線道路等の整備効果を県内各地に波及させるため、銚子連絡道路・長生グリーンライン・千葉東沿岸地域へアクセスする地域高規格道路や国道128号、高速道路のインターチェンジへのアクセス道路である国道296号、国道297号、国道356号、国道357号、国道410号、県道成田小見川鹿島港線及び県道船橋行徳線などの国道・県道の整備を進め、県内外の連携と交流を強化します。

さらに、主要な渋滞箇所の交通円滑化対策をはじめ、県道市原天津小湊線などの主要な観光地までのアクセスルート、日常生活に密接に関連した道路などについて、環境に配慮しつつ整備を推進します。

- 高規格幹線道路等の整備促進
- 国道及び県道のバイパス・現道拡幅の整備推進
- 観光地へのアクセスを強化する道路の整備推進



外環道・北千葉道路(市川～鎌ヶ谷)



館山道(君津インターチェンジ)

チーバくんの 光り輝く県づくりコラム

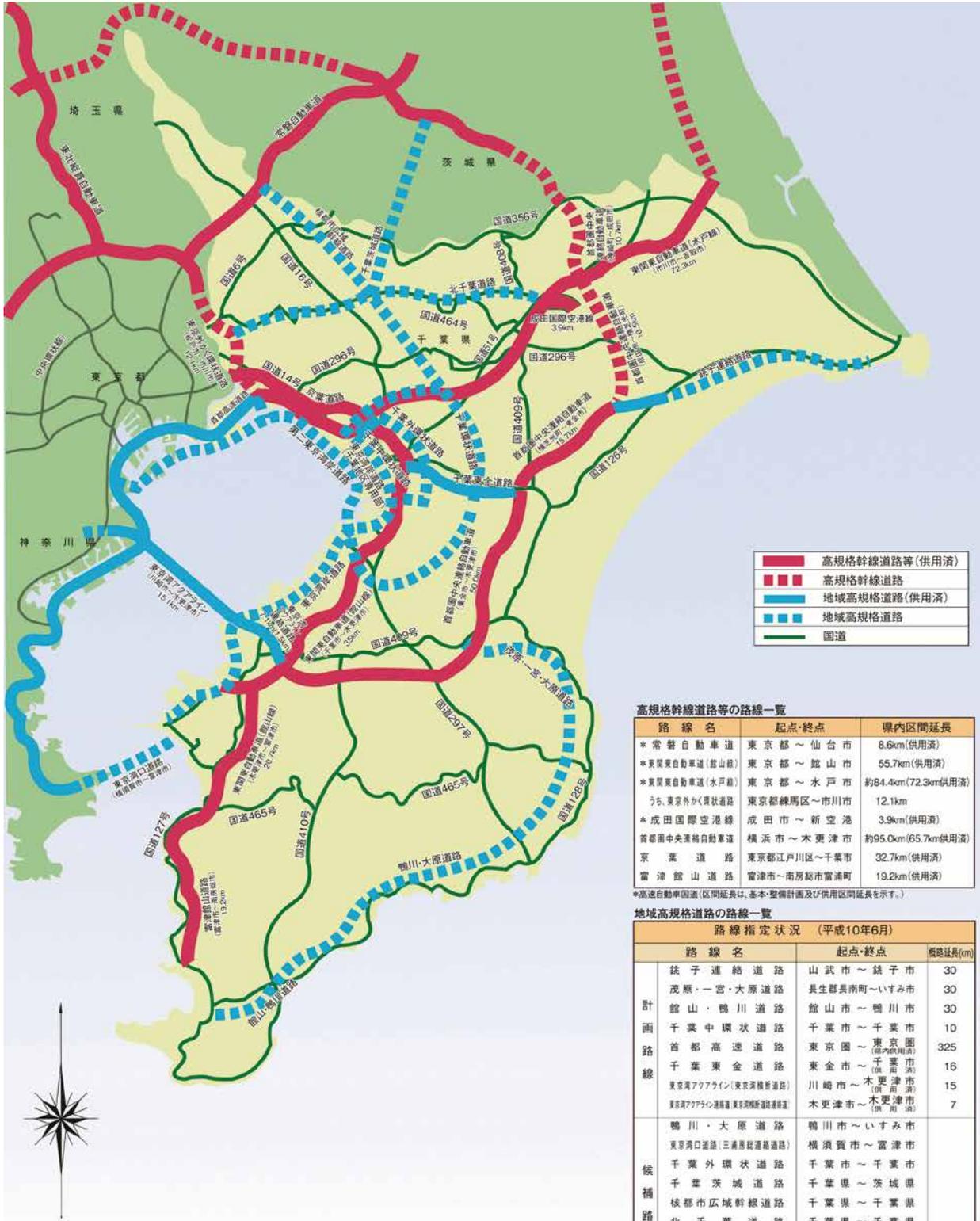
高速道路ネットワークの形成

高速道路ネットワークは、全国との交流を強化するとともに、県内道路網の骨格となり、半島性の解消や調和のとれた発展に大きく寄与し、さらに緊急輸送道路としても救援活動や救援物資の輸送等に大きな役割を果たします。

現在、県内では、圏央道や外環道などの首都圏の広域的な道路ネットワークの形成に向け、整備が進められています。



千葉県道路網図



——	高規格幹線道路等(供用済)
- - - -	高規格幹線道路
——	地域高規格道路(供用済)
- - - -	地域高規格道路
——	国道

高規格幹線道路等の路線一覧

路線名	起点・終点	県内区間延長
* 常磐自動車道	東京都～仙台市	8.6km(供用済)
* 京葉自動車道(松山線)	東京都～館山市	55.7km(供用済)
* 京葉自動車道(水戸線)	東京都～水戸市	約84.4km(72.3km供用済)
うち、東京外かく環状道路	東京都練馬区～市川市	12.1km
* 成田国際空港線	成田市～新空港	3.9km(供用済)
首都圏中央連絡自動車道	横浜市～木更津市	約95.0km(65.7km供用済)
京葉道路	東京都江戸川区～千葉市	32.7km(供用済)
富津館山道路	富津市～南房総市富浦町	19.2km(供用済)

*高速自動車国道(区間延長は、基本・整備計画及び供用区間延長を示す。)

地域高規格道路の路線一覧

路線指定状況 (平成10年6月)		
路線名	起点・終点	概略延長(km)
計	銚子連絡道路	山武市～銚子市 30
	茂原・一宮・大原道路	長生郡奥南町～いすみ市 30
	館山・鴨川道路	館山市～鴨川市 30
	千葉中環状道路	千葉市～千葉市 10
	首都高速道路	東京圏～東京圏(圏内供用済) 325
	千葉東金道路	東金市～千葉市(供用済) 16
	東京湾7777イン(東京湾新道路)	川崎市～木更津市(供用済) 15
	東京湾7777イン(連絡道、東京湾新道路連絡道)	木更津市～木更津市(供用済) 7
候補路線	鴨川・大原道路	鴨川市～いすみ市
	東京湾口道路(三浦新幹線連絡道)	横須賀市～富津市
	千葉外環状道路	千葉市～千葉市
	千葉茨城道路	千葉県～茨城県
	核都市広域幹線道路	千葉県～千葉県
	北千葉道路	千葉県～千葉県
	第二東京湾岸道路	東京都～千葉県
	千葉環状道路	千葉市～市原市
	東京湾岸道路(千葉地区専用部)	千葉市～富津市

3 港湾の整備・振興

物流機能の充実・強化を図るため、千葉港千葉中央地区で大型船舶に対応した水深マイナス12メートル耐震岸壁の整備を進めるとともに、港湾の利用促進を図るため、コンテナを扱う業種にターゲットを絞ったポートセールスを推進します。

また、千葉港及び木更津港において、まちづくり事業と連携した緑地プロムナード及び旅客船埠頭の整備や豊かな自然環境を身近に感じることのできる港湾緑地の整備を進めます。

- 大型船舶に対応した岸壁の整備
- 緑地プロムナード・旅客船埠頭の整備
- 港湾緑地の整備



千葉港千葉中央地区



② 社会資本の充実と適正な維持管理

目標

社会的なニーズの変化に対応して、既存の社会資本の有効活用・機能確保や必要な公共施設の充実化を図ることにより、安全かつ快適な都市の生活環境を創出します。
老朽化する社会インフラに対して、定期的な点検と適切な維持管理を行うことにより社会資本の長寿命化を進めます。

現状と課題

東京湾アクアライン(以下「アクアライン」という。)を含む首都圏の高速道路について、ネットワークとしての機能を十分に発揮できるよう一体的で利用しやすい料金体系が構築されるなど、社会資本の有効活用を図る必要があります。特に、アクアラインの料金引下げ社会実験は、物流の効率化、企業立地の促進、観光の振興が図られるなど、首都圏全体の経済の活性化に大きく貢献しており、この効果を今後も持続・発展させていくことが必要です。

また、都市部では、市街地整備や街路整備など必要な箇所の対応が十分ではないことから、深刻な交通渋滞と、それに伴う多額の経済損失・環境負荷の増大が引き起こされており、円滑な地域間交流のための機能確保が課題となっています。

一方、これまで整備された道路・河川・港湾・公園・上下水道などの社会資本の多くが高度経済成長期に建設されたものであり、老朽化に伴う更新費等の増大が懸念されています。今後は「ストック型社会^{*}」への転換に向け、社会資本の戦略的な更新・維持管理を実施する施策が求められています。

本県は、地理的・地形的に水資源に恵まれておらず、安定した水源の確保が必要です。また、市町村等が運営する水道事業には、水源からの距離や利用者数の違いなどによって大きな体力差がある中で、施設の耐震化や水質管理の強化など様々な課題への対応が求められています。

取組の基本方向

高速道路ネットワークの効率的活用を図るため、アクアラインの料金引下げ社会実験の効果アピールするとともに、国策として一体的で利用しやすい料金体系が実現するよう積極的に働きかけます。また、現在事業中の谷津船橋インターチェンジを着実に整備するとともに、首都圏中央連絡自動車道(圏央道)への追加インターチェンジの整備を進め、地域経済の活性化や渋滞緩和を促進します。

密集した市街地において、鉄道の高架化や街路などの整備を推進するとともに、地域特性に応じて県立都市公園の拡充や流域下水道の整備を推進するなど、県民の生活環境の改善・向上に取り組みます。

形成された社会資本については、「ストック型社会」へ転換していくため、社会資本の計画的な維持管理を進めます。

将来にわたり安全な水を安定的に供給できるよう、引き続き水源の確保に努めるとともに、県内水道事業の運営基盤の強化を図ります。

主な取組

1 公共施設の充実と有効活用

高速道路ネットワークの効率的な活用と機能強化のため、一体的で利用しやすい料金体系の実現に向けたアクアラインの料金引下げ社会実験と現在事業中の追加インターチェンジの着実な整備を行います。さらに、国策としてアクアラインの恒久的な通行料金の引下げを実施するよう国に働きかけます。

また、市街地における道路の慢性的な渋滞などに対処するため、街路事業による都市の骨格を形成する幹線道路の整備や、踏切遮断や鉄道によって分断されている市街地の一体化を進める連続立体交差事業を推進し、交通の円滑化を図るとともに環境負荷の低減を図ります。



東京湾アクアライン



東関東自動車道(酒々井インターチェンジ)

県民の安全で快適な生活のため、良好な都市環境の保全、スポーツ・レクリエーション、防災など多様な機能を有する県立都市公園の整備を推進するとともに、自転車道の整備にも取り組みます。また、生活環境の改善と公共用水域の水質を保全するため、流域下水道施設の計画的かつ効率的な整備を推進するとともに、市町村に対し効率的な公共下水道整備が図られるよう指導・助言を行います。

- 交通遮断時間の多い踏切除去の推進
- 市街地交通の円滑化を図る道路整備の推進
- アクアラインの利用しやすい料金体系の構築
- 追加インターチェンジの整備推進
- 県立都市公園の整備の推進
- 自転車道整備の推進
- 流域下水道整備

2 既存施設の維持管理と長寿命化

道路・河川・港湾・公園・下水道・県営住宅などの既存施設の維持管理に当たっては、中長期的な事業費の縮減や平準化を図るため、点検・評価・計画・補修のメンテナンスサイクルを着実に実施するとともに、これまでの事後的な修繕・更新から予防的な修繕へと転換し、各施設の長寿命化を推進します。

- 道路施設の長寿命化
- 河川施設の長寿命化
- 港湾(海岸)施設の長寿命化
- 県立都市公園の公園施設の長寿命化
- 流域下水道施設の長寿命化
- 県営住宅の長寿命化

チーバくんの 光り輝く県づくりコラム

老朽化する社会資本の維持管理

これまで整備された社会資本の多くが1960年代の高度経済成長期に建設されたものであり、老朽化に伴う更新費等の増大が懸念されています。

県では、これまでの事後保全的な維持管理から、計画的な予防保全的な維持管理に転換を図り、長寿命化によるコスト縮減に努めてまいります。



印旛沼流域下水道の花見川終末処理場

3 安全で良質な水の安定供給

ハツ場ダム等の水資源開発施設の早期完成に向け関係都県と連携を図るなど、安定水源の確保に努めます。

災害対策等の充実、合理的な施設の整備・更新、水道事業者の経営健全化促進等の県内水道が抱える様々な課題を解決し、将来にわたって安全な水を安定的に供給し続けるため、関係市町村等との合意形成を図りながら県内水道の統合・広域化を進めるなど、水道事業の運営基盤の強化を図ります。

また、県営水道においても、経営基盤の維持・強化を図るとともに、老朽化の進む浄給水場及び送・配水管などの更新・耐震化を、東日本大震災の経験を踏まえ液状化による被害なども想定しながら、計画的かつ効率的に推進し、将来にわたり安全で良質な水の安定供給に努めます。

- 水資源開発事業促進のための協議会開催
- 水道事業者への財政支援等
- 県内水道の統合・広域化
- 県営水道の計画的な事業運営



水道局マスコットキャラクター
ポタリちゃん

③ 人と環境にやさしい住まい・まちづくりの推進

目標

県民の誰もが安全に安心して快適に暮らすことができる住まい・まちづくりを進めます。
地球環境にやさしく利便性の高いまちづくりを進めます。

現状と課題

今後、少子高齢化が更に進展することが予測されており、高齢者等に配慮した住まい・まちづくりの推進が一層求められています。公共交通施設や道路などのバリアフリー化を進めるとともに、高齢者等の住まいに係る住宅セーフティネット*の構築が重要となります。

また、自然環境への配慮や地球温暖化防止を図るため二酸化炭素の排出量削減への取組が求められています。道路や河川などの整備における環境への配慮とともに、人口と建築物が集積する都市における低炭素化に向けた取組が課題となっています。

一方、人々の価値観やライフスタイルが多様化し、まちづくりへの参加意欲や良好な景観形成に対する県民の関心も高まっています。豊かな住生活の実現に向けて、地域特性に応じた住まい・まちづくりが求められています。

取組の基本方向

人口減少の進展や都市の低炭素化などに対応するため、持続可能な集約型都市構造*の実現を図るとともに、地域が活性化し、県民の誰もが安心して快適に暮らすことができるまちづくりを推進します。

公共交通機関のバリアフリー化については、国が定めた基本方針による目標の達成に向け、引き続き関係機関と連携し、市町村や事業者に対する効果的な補助を行い、整備を促進します。また、道路や建築物などの公共施設については、バリアフリー化やユニバーサルデザイン*の普及を図ります。

まちづくりにおいては、地域に愛着を持つことのできるよう良好な景観の形成に取り組むとともに、土地区画整理事業や市街地再開発事業*において安全かつ快適な生活空間の創出を図ります。また、環境に配慮した道づくりを進めるとともに、都市における緑の保全・創出や河川・湖沼等の自然環境の保全と再生等に取り組みます。

住まいづくりにおいては、行政・事業者・市民活動団体・県民などの多様な主体と連携・協働し、豊かな住生活の実現を目指します。

主な取組

1 時代の変化に対応したまちづくりの推進

社会・経済情勢の変化に的確に対応するため、持続可能な集約型都市構造の実現に向け、市町村と協働して、土地利用や道路等の都市計画の見直しを行うなどにより、地域特性を踏まえたまちづくりを進めます。

- 時代の変化に対応した都市計画の見直し
- 市町村のまちづくりに対する支援

2 安全・安心で快適な生活空間を創出するまちづくり

柏・流山地域では、つくばエクスプレス沿線と一体となった秩序ある住宅地の形成を図る土地区画整理事業を進めるとともに、様々な分野での大学と連携したまちづくりの取組を促進します。東京湾アクアライン着岸地では、交通利便性を生かした多様な都市機能が集積したまちづくりを推進します。

また、地域のまちづくりの方針等に基づき密集市街地や街路・駅前広場などの都市基盤や拠点整備に対する支援を行うとともに、良好な住宅・宅地の供給を図り、安全で快適な生活空間を創出するまちづくりを進めます。

このほか、バリアフリー対策を推進するため、鉄道駅のエレベーター等の整備やノンステップバスの導入、県が管理する特定道路*の歩道等における段差解消や視覚障害者誘導用ブロックの設置などの対策を実施します。また、電柱や電線類が特に支障となる箇所において無電柱化を推進するとともに、安全で快適な建築空間の創出や環境負荷低減の配慮などに優れた建築物の普及啓発に取り組みます。

- つくばエクスプレス沿線土地区画整理事業の推進
- 柏・流山地域における大学と地域が連携したまちづくり推進事業
- 金田西特定土地区画整理事業の推進
- 千葉ニュータウンのまちづくり推進
- 組合施行土地区画整理事業の促進



柏の葉キャンパス駅周辺

チーバくんの 光り輝く県づくりコラム

かずさアクアシティ

木更津市中心部から北へ約5kmに位置する金田地区は、東京湾アクアラインの着岸地として広域的なアクセスが向上したことにより、大きな発展が期待されています。

このような東京湾アクアラインを活かした千葉県の新たな玄関口として、周辺環境と調和した質の高いまちづくり「かずさアクアシティ」が千葉県(金田西地区)と都市再生機構(金田東地区)により進められています。



- 市街地再開発事業の促進
- 地籍調査事業の推進
- 鉄道駅バリアフリー設備の整備支援
- ノンステップバスの整備支援
- 特定道路のバリアフリー対策の推進
- 無電柱化の推進
- 千葉県建築文化賞表彰の実施

3 環境・景観に配慮した整備・保全

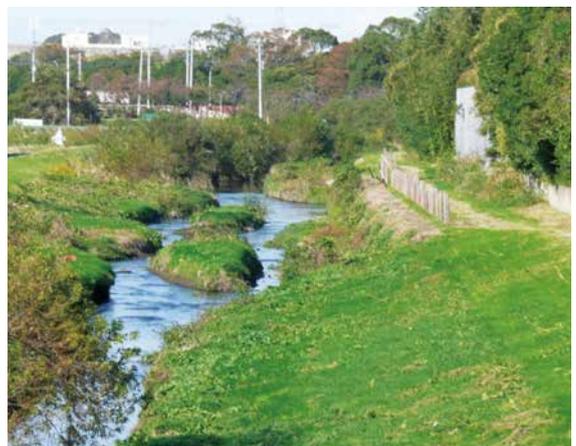
河川・湖沼などの水質浄化を図るため、流入負荷の削減や自然浄化機能の回復を推進するとともに、多自然川づくり*の実施により、多様な生物を育み潤いのある川づくりを推進します。また、環境にやさしい道づくりを進めるため、バイパス等の事業を行う際に周辺環境に配慮した整備を行うとともに、歩道部での透水性舗装*の普及や、必要に応じて車道部での排水性舗装*の実施に取り組みます。

良好な都市環境の形成を図るため、市町村と連携しながら、特別緑地保全地区*の指定等による緑地の保全や都市公園の整備等による緑の創出、歴史的街並みなど地域の特性を生かした「水と緑のふれあいの場」の創出を推進します。

さらに、良好な景観形成を推進するため、市町村の主体的な取組への支援や県民等の景観づくりへの参加を促進します。また、県が公共事業を実施するに当たっては景観へ配慮するとともに広域的な観点による良好な景観形成を進めます。

また、多様な主体による協働の下、景観、自然、歴史、文化等の地域資源を生かした地域活性化、観光振興に寄与する、日本風景街道の一層の推進を図ります。

- 周辺環境に配慮した道路の整備推進
- 透水性舗装・排水性舗装の推進
- 河川環境の整備と保全
- 都市の緑の保全・創出
- 景観セミナー等による普及・啓発活動の実施及び市町村支援
- 屋外広告物の規制・誘導



河川環境の保全

4 豊かな住生活の実現

県民の豊かな住生活の実現に向け、良質な住宅ストック*の形成、良好な居住環境の形成、住宅市場の環境整備、住宅セーフティネットの確保や地域特性に応じた施策の展開を、行政・事業者・市民活動団体・県民などの多様な主体と連携・協働を行うことにより推進します。

- 住情報の提供
- 高齢者等に対する適切な住宅の確保
- マンション管理の支援
- 県営住宅の建設・管理



千城台西県営住宅第4期1工区の完成イメージ